

肥満でない非アルコール性脂肪性肝疾患の患者では心臓血管病のリスク高い

非アルコール性脂肪性肝疾患は心臓血管病発症のリスク因子として知られている。非アルコール性脂肪性肝疾患のおよそ 20%が肥満でない人に発症するが、過体重でない非アルコール性脂肪性肝疾患患者と心臓血管病の発症リスクとの関連は未解明のままである。本研究では、過体重でない非アルコール性脂肪性肝疾患患者の心臓血管病発症リスクについて検討した。

日本人 1,647 例の前向きコホート研究の事後解析を行った。腹部超音波検査により非アルコール性脂肪性肝疾患を診断した。過体重は WHO でアジア人に推奨される BMI23 以上と定義し、非アルコール性脂肪性肝疾患や過体重があるかによって 4 つの表現型に分類した。結果、心臓血管病の発症率は、非アルコール性脂肪性肝疾患でも過体重でもない人で 0.6%、非アルコール性脂肪性肝疾患はあるが過体重ではない人で 8.8%、非アルコール性脂肪性肝疾患のない過体重の人で 1.8%、非アルコール性脂肪性肝疾患があり過体重の人で 3.3%であった。非アルコール性脂肪性肝疾患でも過体重でもない人と比較した心臓血管疾患発症の調整ハザード比は、非アルコール性脂肪性肝疾患だが過体重ではない人で 10.4 倍、非アルコール性脂肪性肝疾患ではないが過体重の人で 1.96、非アルコール性脂肪性肝疾患かつ過体重の患者では 3.14%であった。

したがって、非アルコール性脂肪性肝疾患であるが過体重でない患者が最も心臓血管病発症のリスクが高かった。心臓血管イベントの発生を防ぐため、過体重でなくても非アルコール性脂肪性肝疾患に注意すべきである。

出典 : Medicine. 2017 May; 96(18): e6712.